

— よりよい調査で住みよい国土 —

株式会社 ユニオン・コンサルタント



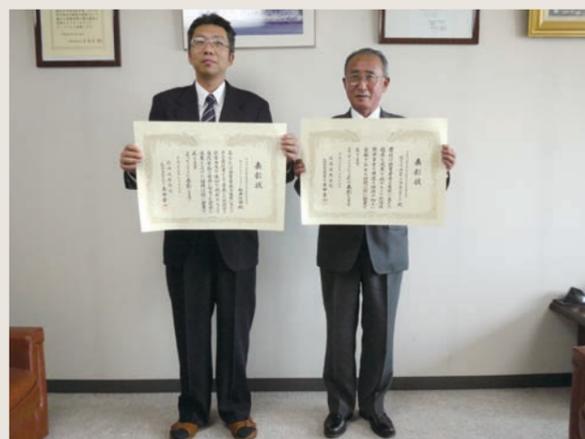
所在地：〒001-0045 北海道札幌市北区麻生町7-3-12
 TEL：011-746-8281
 FAX：011-746-8284
 URL：http://www.unioncons.co.jp
 従業員：20名(2016年4月現在)
 設立：1974年
 代表者：代表取締役 河野純一



恒例の社内技術検討会



これも恒例「夏至祭」(屋上焼き肉大会)



北海道開発局札幌開発建設部より表彰(2013年)

沿革・会社概要

我が社は1974年に札幌市で地質調査・資源調査を主とする地質の総合コンサルタントとして創業しました。その後、社会環境の変化や多様化に対応するために、業務範囲を測量、土木設計、環境調査にも拡大し、現在に至っております。

ユニオンコンサルタントと書かれることが多いのですが、「ユニオン」と「コンサルタント」の間に中点が入るのが正式な表記です。

「ユニオン」とは英和辞書では「(二つ以上のものを)結びつけること」とされております。この社名と当社の座右の銘である「よりよい調査で住みよい国土」には、地質学を基礎として、関連科学・技術を結びつけた総合コンサルタントを目指す、という創業時の思いが込められております。

現在の業務地域は北海道全域です。“なーんだ、北海道だけかい”と思うかも知れませんが、北海道の面積は北方領土の4島を除いても四国・九州・沖縄県+山口県の13県を合わせた面積よりも広いので「ちょっと現

場まで」と言って往復1,000km以上になることもあるのです。

我が社の特色

我が社は測量、地質調査、設計の各担当技術者が連携することにより、一貫した対応が取れることが特徴です。

対象範囲の広いのも特色の一つです。海から川、市街地から郊外、さらには山岳地、急傾斜地まで、「どこでも行きますよ」というのが「売り」です。

何より「手間ひまかける」がモットーです。とにかく現場に行く、現場をよく見る、周囲もよく見る、関連する箇所も見る、そして「観察された事象から多角的に考える」を心がけております。

おかげさまで発注者からも高い評価をいただき、2013年には北海道開発局札幌開発建設部より地質調査業務で、また札幌市より測量業務で表彰を賜り、2014年には北海道より地質調査業務で表彰を賜りました。



河川底土壌の採取



厳冬期の山岳地でのボーリング調査



河川改修工事に伴う土壌汚染調査



法面点検



孔内傾斜計による地すべり滑動観測



測帯盛土設計でのコーン貫入試験



海上でのボーリング調査



河川での流量観測



測量設計業務でのドローンを用いた空撮

新たな課題への取り組み

現在、新たに取り組みを強めているのが土壌汚染調査、生態系調査といった環境関連調査です。これらの新たな課題に対しても従来の地質、土質、地下水調査の知識、経験が生きてくと実感しております。

現在の技術職員は12名ですが、内、技術士取得者は5名、RCCMは6名、測量士4名、一級土木施工管理技士3名です(重複あり)。

新たな課題に取り組むためにも、各種の資格の取得を積極的に行っております。

困った問題

社員の勤務年数が長いのも我が社の特徴かも知れませんが、現在、定年は65歳ですが、社員の平均年齢は50歳を超えています。

その一方で20代、30代はわずかしおらず「絶滅危惧種」と言われております。将来にわたる事業継続、技術伝承と言った問題を考えると深刻な状況です。

そのような状況ですから、50代、60代でも現場に出

ております。机に座って「後進を指導」などということはありません。

未来に向かって

2015年の国勢調査速報値によると日本の総人口は、国勢調査においても初めて減少に転じたとのことです。これに先んじるように北海道では2000年の国勢調査から総人口が減り始めております。

同時に都市への人口集中も進み、北海道では人口の上位3市(札幌、旭川、函館)で全道人口の約50%を占めるまでに至っております。これらの傾向は、大きく社会情勢が変わらない限りは続くことでしょう。

取り組むべき課題は時代に応じて変化します。新しく生じる課題に対してどのように取り組むべきかと考えたとき、「まず、地球を認識することから始まる」と私たちは考えております。

(文：技術本部長 関根幸博)